

# 週刊センターニュース No.44



第44号(2005年1月18日)毎週月曜日発行  
発行: 金沢大学 大学教育開発・支援センター  
URL: [http://www.kanazawa-u.ac.jp/faculty/daikyou\\_rche/index.htm](http://www.kanazawa-u.ac.jp/faculty/daikyou_rche/index.htm)

## 共同学習会のお知らせ

第55回 日時: 1月20日(木) 16:20~17:50

場所: 角間キャンパス総合教育棟2階会議室

テーマ: 研究会「新・学部教育コンセプトの開発と実際」参加報告

担当: 西山宣昭(大学教育開発・支援センター)

趣旨: 12月13日、地域科学研究会・高等教育情報センター主催の研究会に参加したので報告する。研究会での3名の報告者と題目は以下の通り。

丹保憲仁(放送大学学長)「大学コンセプトの再構築

「大学の類型」「教育プログラム」とその評価」

芝井敬司(関西大学文学部長)「8学科から総合人文学科統合の理念と展開」

白井嘉一(福島大学学長)「3学部2学科6課程体制から2学群4学類12学系体制への全学再編

第56回 日時: 1月25日(火) 16:20~17:50

場所: 角間キャンパス総合教育棟2階会議室

テーマ「共通教育カリキュラム改革について - その2 外国語科目を中心に - 」

担当: 矢淵 孝良(外国語教育研究センター)、澤田 茂保(外国語教育研究センター)

第57回(当センター共同学習会と本学イーラーニング研究会との第6回合同研究会として開催します。)

日時: 2月8日(火) 16:20~17:50

場所: 総合メディア基盤センタープレゼンテーション室

テーマ: 「文系のための e-Learning 入門」---教師の負担を極限にまで減らすには」

担当: 細谷行輝(大阪大学サイバーメディアセンター教授)

大前智美(大阪大学サイバーメディアセンター助手)

趣旨: 現在、e-Japan、生涯学習等、政府の政策により、コンテンツ、すなわち、デジタル教材作成のための公的な支援が受けやすい環境となりつつあります。しかしながら、デジタル教材を使って効果的な授業を実施するには、優れたデジタル教材に加えて、授業を支援するシステムソフトが必要となりますが、従来の授業支援システムでは、隔靴搔痒の感を拭えず、とりわけコンピュータ関連の知識の乏しい文系教師のレベルを念頭に置いた場合、お世辞にも、使いやすいとは言えない状況にありました。そこで、真にユーザフレンドリーなWEB対応授業支援システムの開発を目指して出来たのが WebOCM「ウェブ・オーシーエム」です。このシステムを活用してどのように e-Learning 授業を実践しているのか、実演を含めながらお話し致します。

## 学士課程教育の再構築について～その2～

前号に続いて、昨年12月13日の地域科学研究会主催のセミナー「新・学部教育コンセプトの開発と実際」に参加したので報告する。関西大学文学部における学科統合（報告者：芝井敬司先生（関西大学文学部長））を紹介したい。

現在、学士課程教育の再編について様々な取り組みや議論が行われている。昨年12月に中央教育審議会大学分科会より出された「我が国の高等教育の将来像」（中間報告）では、大学種の機能分化の予測と学士課程の再構築について言及されている。本学においては、平成20年度に向けた3学域への統合が進んでいることは周知の通りである。学士課程教育の再編の背景として、社会の変化に伴う学問領域のダイナミクス、社会が求める人材の変化、入学してくる学生の多様化などが指摘されている。関西大学文学部の学科統合の起点となった文学部将来構想委員会提言（2001年12月）においても、「現在の文学部の最大の課題は、受験生や学生の高等教育に対するレディネスやニーズの変化、今後一層求められるであろう学際的な学問研究、より充実した個々の専門分野での教育の実現などといった多様な問題に、どのように柔軟に対応できるかという点にある。」と学部改革の必要性が述べられている。

2004年度より、8学科は1学科「総合人文学科」に統合され、その1学科のもとに従来の学科に対応する10専修が配置された。10専修の中には、学際的な領域に対応するインターディパートメント専修が含まれる。従来の学科ごとの入学制度から、学部一括入学方式に改め、2年次進級時に10専修に分属されることとなった。このような late specialization（遅い専門化）への変更に合わせて、様々な科目や学習プログラムが開発された。新設された1年次の共通専門科目、「学びの扉」（入門講義型）、「知へのパスポート」（入門演習型）、「知へのナビゲーター」（フレッシュマンセミナー型）の履修を通して複数の専修の専門領域に触れることによって、自分の適性について考える機会を与える。

学部一括入学方式への変更に伴って、専修間での競争的環境が生じたという。推薦入試、AO入試で入学が決まった学生には、入学までの4ヶ月間プレチューデントプログラムが行われるが、大学での複数回の課題学習や入門的教材の作成などに各専修が積極的に取り組むようになった。また教養科目には各専修のエースが出勤するという。

関西大学文学部の学部改革において最も際立った取り組みは、今年4月から始まる「テーマ・プロジェクト教育」であろう。社会の変化に伴う学問領域の融合や創生に柔軟に対応するために導入されたものである。プロジェクト研究テーマと教員採用とをペアで学科内で公募する。現在までに6名の新規教員を採用し、「アメリカの文化研究」、「フィールドワークとしての芸術学」、「フランス映像文化論」、「文化遺産学」、「アジアの民族宗教学」、「地域実践心理学」の6テーマのプロジェクト研究が動き出す。このテーマ・プロジェクトには10～15名の学生が参加する。つまり、通常、各専修に分属された後は専修内の卒論研究を行うが、3年次に卒論研究としてテーマ・プロジェクトを選ぶことができる。したがって、専修分属後においても専修内の分野とともに新たな選択肢が与えられることになる。また、テーマ・プロジェクトには専修にまたがる様々な分野の学生が集まることになる。

ここで紹介した関西大学文学部の学部改革については、3月1日の当センター主催の第2回大学教育セミナー「学士課程教育の再構築について考える」において、山本冬彦教授（関西大学文学部教授）を講演者のお一人としてお招きし、お話を伺う予定である。多数のご参加をお願いしたい。

（文責 西山）